

中 学 校

平成 31 年度 (2019 年度)

教育研究員研究報告書

特別の教科 道徳

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	2
IV	研究の方法	3
V	研究の内容	4
VI	検証授業	6
VII	研究のまとめ	15

研究主題

道徳的価値の理解を深める指導法の工夫

I 研究主題設定の理由

1 道徳科への改訂

平成31年4月、中学校において「特別の教科 道徳」（以下、「道徳科」と表記。）の全面実施となった。道徳科の授業に関わる様々な課題を踏まえ、「考え、議論する道徳」への質的転換を図るために、道徳科の目標を分かりやすくするために学習活動を明記したことや、多様な指導方法の工夫例として問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習等を示すなどの改訂となった。

本研究は、これらの改訂の一つである道徳科の目標を分かりやすくするために明記された学習活動に着目することにした。

道徳科では、自立した人間として他者と共によりよく生きるための道徳性を育むために、道徳的諸価値の理解を基に人間としての生き方についての考えを深める学習を行う。

指導に当たっては、道徳的価値について自分との関わりで考える「自己を見つめる」学習や、道徳的価値を様々な角度から総合的に考察ができるように「物事を広い視野から多面的・多角的に考える」学習を工夫することが重要である（図1）。

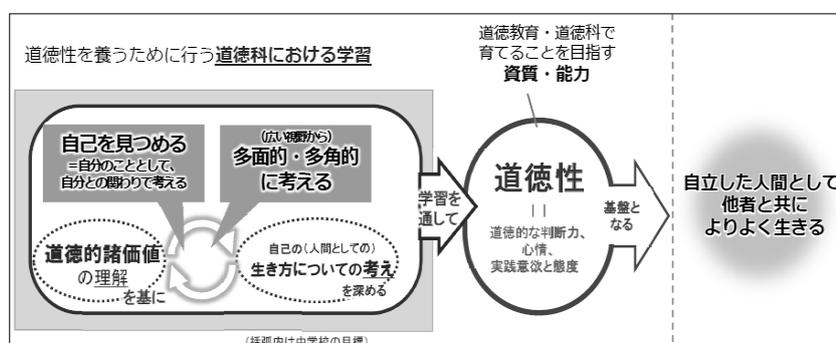
このことから本研究では、生徒が人間としての生き方についての考えを深めるには、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考えることを通して、生徒一人一人が「道徳的価値の理解を深めることができる学習」を充実させることが、道徳科の授業づくりにおいて要であると捉えた。

2 学校の現状から

道徳科の全面実施に伴い、研究員の所属する学校において、「考え、議論する道徳」の授業や評価の在り方を模索する動きが出てきている。

中でも、所属校の教員は、校内における研究・研修を通して、これまでの道徳科の授業を振り返り、「生徒の意見を生かした授業ができない。」「学習指導案通りに進めようとする意識が強すぎた。」などの指導技術や、「生徒が考えることを楽しいと感じられる授業ができていない。」「価値を押し付けてしまう授業となってしまう。」といった授業づくりなどの難しさを感じている現状がある。

また、道徳科の授業における生徒の反応は、十分によいとは言えない。しかし、「いろいろな考えが分かって面白かった。」「自分の考えが発言できることは、楽しい。」「他の考えを



(図1)「H29年度道徳教育指導者養成研修ブロック説明会 行政説明資料」(文部科学省)

聞いて、なるほどと思う。」といった肯定的な感想が見られる。これらの生徒の声は、道徳的価値について自分との関わりで考えたり、他者との対話の中で、新たな考えが生まれたりするなど、道徳的価値の理解が深まったから出てきたものと捉えることができる。このような生徒の声は、道徳科における主体的・対話的で深い学びの一つの姿と言えるのではないかと考える。

これらのことをまとめると、以下の3点となる。

○道徳的価値の理解を深める学習を充実させることが重要である。

○教員は、道徳科の授業における指導技術や授業づくりの難しさを感じている。

○生徒の深い学びには、道徳的価値の理解を深める学習の機会と指導が必要である。

以上より、「道徳的価値の理解を深める指導法の工夫」を研究主題とした。

II 研究の視点

1 道徳的価値について自分との関わりで考える意識をもたせる工夫「考える土台づくり」

道徳的価値について理解を深めるためには、まず、生徒が道徳的価値について自分との関わりで捉える必要がある。ここでの「捉える」とは、道徳的価値を、「自分の生活の中にあること」、「人間の生き方の中でなくてはならないもの」などと、その存在を自分自身の生活や生き方の中に見いだすことと定義している。

このように生徒が「捉える」には、教科書の読み物教材（以下、「教材」と表記。）を活用する前や、中心的な発問によって道徳的価値について考える前に、生徒が道徳的価値について自分との関わりで考えるための準備を行うとよいのではないかと考えた。

この準備のことを本研究では「考える土台づくり」とし、この土台をしっかりと作ることで、生徒に、道徳的価値について自分との関わりで考える意識をもたせることができると考えた。

2 道徳的価値の理解を深める発問の工夫「深化の発問」

これまでの中心的な発問では、教材における登場人物の心情や判断を問う発問が多く見られた。この発問によって導き出された生徒の意見を基に、道徳的価値の理解を深めるための話合いを行うのだが、この話合いにおいて授業者は生徒の意見を「どのように生かせばよいか」、「この後、どのように授業を展開すればよいか。」といった指導の難しさを感じている。

そこで、この指導の難しさを緩和し、中心的な発問によって出された生徒の意見を生かすために、もう一つの発問を付け加えることを考えた。この発問は、中心的な発問の後に設定し、道徳的価値の理解を深める発問であることから、「深化の発問」とした。

III 研究の仮説

道徳的価値について自分との関わりで考える意識をもたせる工夫「考える土台づくり」や、道徳的価値の理解を深める発問「深化の発問」を取り入れることで、生徒は道徳的価値について自分との関わりで考え、ねらいとする道徳的価値の理解を深めるだろう。

IV 研究の方法

1 研究構想図

道徳科に関わる現状や課題

- 道徳的価値の理解を深める学習を充実させることが重要である。
- 教員は、道徳科の授業における指導技術や授業づくりの難しさを感じている。
- 生徒の深い学びには、道徳的価値の理解を深める学習の機会と指導が必要である。

研究主題

道徳的価値の理解を深める指導法の工夫

研究の視点 「DODAI-MON」(「土台」－「問」)

- 1 道徳的価値について自分との関わりで考える意識をもたせる工夫「考える土台づくり」
- 2 道徳的価値の理解を深める発問の工夫「深化の発問」

研究の仮説

道徳的価値について自分との関わりで考える意識をもたせる工夫「考える土台づくり」や、道徳的価値の理解を深める発問「深化の発問」を取り入れることで、生徒は道徳的価値について自分との関わりで考え、ねらいとする道徳的価値の理解を深めるだろう。

研究の内容

1 検証の視点

ねらいとする道徳的価値の理解を深めようとしている生徒の姿を「期待する生徒像の視点」として設定する。この視点を基に、ワークシート等を分析することで生徒の学習状況を把握し、指導法の効果を検証する。

2 検証授業

- | | | |
|----------|----|---------------------------------------|
| (1) 第2学年 | 内容 | 礼儀 |
| | 教材 | 「Manners make the man」 |
| | 出典 | 東京都道徳教育教材集(東京都教育委員会) |
| (2) 第3学年 | 内容 | 生命の尊さ |
| | 教材 | 「生まれてきてくれて、ありがとうー助産師からのメッセージー」 |
| | 出典 | 東京都道徳教育教材集(東京都教育委員会) |
| (3) 第1学年 | 内容 | 相互理解、寛容 |
| | 教材 | 「言葉の向こうに」/「こんなつもりじゃなかったのに」 |
| | 出典 | 私たちの道徳 中学校(文部科学省)/SNS東京ノート4(東京都教育委員会) |

研究のまとめ

検証授業の成果と課題を明らかにすることで、道徳的価値について自分との関わりで考える意識をもたせる工夫及び道徳的価値の理解を深める発問(「DODAI-MON」)の活用方法をまとめる。

V 研究の内容

1 基礎研究

(1) 道徳的価値の理解を深めるための課題

生徒が、道徳的価値の理解を深める上で課題となっていることや、教員の指導技術等に関する課題について検討し、(表1)に整理した。

(表1) 道徳的価値の理解を深めるための課題

生徒	教員
<ul style="list-style-type: none">○学習意欲の高まりが十分ではない。また、学習に取り組む習慣を身に付ける必要がある。○主体的に考える姿勢が十分ではない。○自分の考えの理由を十分に伝えることが難しい。(経験や常識の範囲でこういうものだと思い込んでいる。)○道徳的価値について自分との関わりで考えることが難しい。(生活との結び付き、自分の経験を思い出す。)	<ul style="list-style-type: none">○発問した後、生徒が考えを生かしきれない。○道徳的価値について生徒に深く考えさせることができていない。○学習指導案通りに、授業を進めようとする意識が強くなってしまう。また、価値を押し付けてしまう。○授業における生徒の反応を見ると、「楽しい」と感じさせる授業ができないと感じる。

こうした課題を踏まえ、道徳的価値について考える意識をもたせる指導法の工夫「考える土台づくり」と道徳的価値の理解を深める発問の工夫「深化の発問」について具体的に検討し、指導法を考えることにした。

(2) 道徳的価値の理解を深める指導法

ア 道徳的価値について考える意識をもたせる工夫「考える土台づくり」

「考える土台づくり」では、道徳的価値について自分の経験を振り返ったり、思い出したりするような発問や授業展開等の工夫を行う。

例えば、

- 導入段階や展開段階で、最初の発問として行う。
- 展開段階で、ねらいに関わる教材を使用した活動を設定する。
などが考えられる。

検証授業では、ねらいに即し、生徒の実態や教材の特性を考慮しながら設定する段階を決め、具体的な工夫を考えていく。

イ 道徳的価値の理解を深めるための発問「深化の発問」

「深化の発問」は、中心的な発問で考えた後、道徳的価値の理解を深めることができる発問を、事前に準備しておくところに特徴がある。

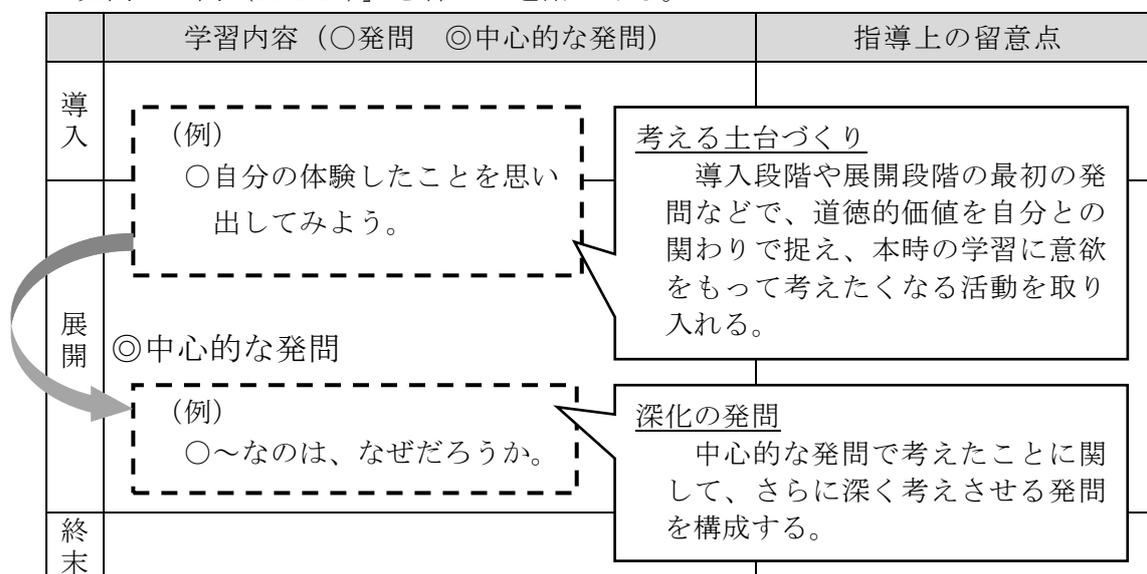
具体的には、『「きまりは、どうして守らないといけないのか。」』など、教材における登場人物の言動ではない発問や、「登場人物のその後について考える発問」など、ねらいに即して発問を設定する。

発問後は、話し合い活動や考えを共有する時間をとり、多様な感じ方や考え方に会わせることで、生徒の道徳的価値の理解を深めることにつなげていく。

ウ 「DODAI-MON」の位置付けについて

道徳的価値の理解を深めるために「考える土台づくり」と「深化の発問」を指導展開に位置付け、この指導法を「DODAI-MON」とした(図2)。

「DODAI-MON」とは、考える土台づくりの「土台(DODAI)」と深化の発問の「問(MON)」を合わせ造語である。



(図2)「DODAI-MON」の位置付け

(3) 検証の視点(期待する生徒像の視点)の設定

「DODAI-MON」の有効性について、道徳的価値の理解を深めようとする生徒の学習状況を把握し、数量化して分析することにした。道徳科の特質から考えると、授業者が道徳的価値の理解の程度を基準化し、生徒の学習を評価することは望ましくない。

そこで、道徳的価値の理解が深まったとする定義を、「ねらいに対する考えの深まり」とした上で、(表2)のように、期待する生徒像を検証の視点として設定し、ワークシートの記述を分析することにした。

(表2) 期待する生徒像の視点

期待する生徒像の視点	主な内容
①ねらいに対する考えの深まりがあった。	ねらいに即した、生徒自身の思いや理由が見られる。
②ねらいに対する考えの深まりはないが、新たな気づきがあった。	ねらいには即していない、または深まってはいないが、新たな気づきがあり、それに対して生徒自身の思いや理由が見られる。
③その他	道徳的価値のみを記述した、など。

※数値による分析は、生徒一人一人の学習を評価するものではない。

また、生徒が道徳的価値の理解を深めようとする学習状況は、人間としての生き方についての考えを深めようとするにつながるものである。したがって、人間としての生き方についての考えを深めようとしている学習状況が見られた場合も、「DODAI-MON」の有効性を検証する資料としたい。

VI 検証授業 <指導例 1：第 2 学年>

1 主題名 マナーとは何か（B 礼儀）

2 教材名 「Manners make the man」 出典：東京都道徳教育教材集（東京都教育委員会）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

社会には、互いに気持ちよく生活するためにマナーという考え方がある。スポーツの試合などで、日本人のマナーの良さが報じられている一方、公共の場などでマナーの悪さを指摘する声や、マナーを啓発するポスターが貼られている。

互いが気持ちよく生活するために、真にマナーある行動の大切さについて考えさせ、その価値に気付かせたい。

(2) 生徒の実態

中学生の段階では、まだまだ受け身な姿勢から抜け出せず、自分から進んで礼儀にかなった行動ができない生徒も少なくない。また、マナーある行動が大切なことは分かっているが、その行動の意味を問い、マナーの価値を考え直すことは少ないと考える。

(3) 教材について

本教材は、マナーとルールとの違いや、文化・地域によるマナーの違いなど、様々な視点で考えさせることのできる教材である。

本時では、マナーについて多面的・多角的に考えさせることで、マナーは心と行動が一体となって表れることに気付かせ、マナーを守って行動しようとする意欲をもたせたい。

4 検証の視点（期待する生徒像）

期待する生徒像の視点	ワークシートの記述例
①ねらいに対する考えの深まりがあった。	・ 普段あまり考えずに行動していたけれど、自分の行動が周囲にどれだけ影響しているのか考えることができた。 ・ 周りの人たちが気持ち良く生活できるように心がける。
②ねらいに対する考えの深まりはないが、新たな気付きがあった。	・ 来年のオリンピックとパラリンピックに向けて、日本に住んでいる自分がマナーある行動をとっていきたい。
③その他	・ マナーを守る。

5 「DODAI-MON」の工夫

(1) 考える土台づくり

本教材は評論的な内容であり、道徳的価値について自分との関わりで捉えることに難しさを感じる生徒がいると思われる。そこで、考える土台づくりでは、自分の体験を思い出させて、グループで体験を共有させることにした。

具体的には、身近な生活から良いマナー・悪いマナーを考えさせ、付箋紙に書かせる。書いた付箋紙をグループポスターとしてまとめ、学級全体で共有する。

(2) 深化の発問

深化の発問では、中心的な発問の後、分かっているが実行することができない人の心の弱さについて考える発問を行う。マナーについて多面的・多角的に考えさせることで、道徳的価値の理解を深めていく。

6 本時の指導

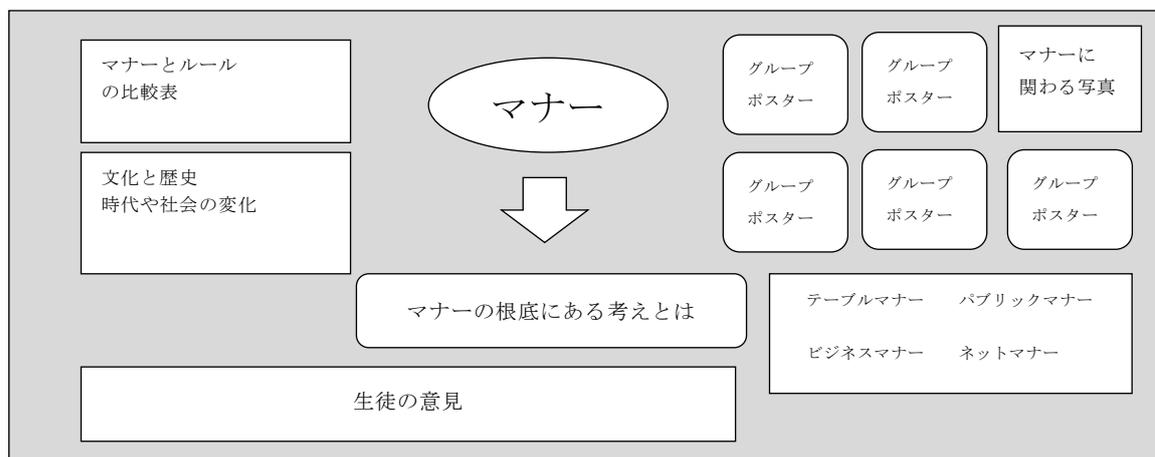
(1) ねらい

マナーについて多面的・多角的に考えることを通して、マナーは心と行動が一体となって表れるものであることに気付かせ、マナーを守ろうとする実践意欲を育む。

(2) 展開

	学習内容 (○発問 ◎中心発問)	・指導の留意点 ☆評価
導入	<p>1 マナーについて自分の体験を振り返りグループで共有する。</p> <p>①自分が実践しているマナーに関わる行動や身の周りの生活を振り返り、良いマナー、悪いマナーを考えよう。</p> <p>②出てきた意見をグループで共有しよう。</p> <p style="text-align: center;">DODAI-MONの工夫(1) 考える土台づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最近のニュースで取り上げられているマナーについて話題を紹介する。 ・教材に出てくるマナーを事前に紹介する。 ・付箋を2枚配布して、良いマナーは青色、悪いマナーは赤色に記入する。 ・記入をしたら画用紙に貼り、グループで共有する。
展開	<p>2 教材「Manners make the man」を読んで話し合う。</p> <p>○ルールとマナーの違いは何だろう。</p> <p>◎マナーの根底にある考えとはどのような考えだろう。</p> <p>○なぜ人は、マナーを守ることが大切と分かっているながら、マナーを守れないことがあるのだろうか。</p> <p style="text-align: center;">DODAI-MONの工夫(2) 深化の発問</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を範読する。 ・考えの根拠などを問い返す。 ・グループでの話し合いをさせる。
終末	<p>3 学習をまとめる。</p> <p>○今日の学習で「マナー」について考えてみましょう。</p>	<p>☆評価「4 検証の視点」参照。</p>

7 板書計画



8 授業実践を終えて（ワークシートの分析）

(1) ワークシートの分析と考察

期待する生徒像の視点	人数
①ねらいに対する考えの深まりがあった。	15名
②ねらいに対する深まりはないが、新たな気づきがあった。	10名
③その他	2名

①ねらいに対する考えの深まりがあった。（15名）

生徒によるワークシートへの記述
・ルールと違って、マナーは自分が不利益にならないと思うけれど、世の中の人がこのような考えをもつことで、人の生活や国に被害を与えることもあるのではないかと思った。それは、自分の生活や被害があることと同じだと思うので、自分を優先するのではなく、自分からマナーを守っていき、人々にマナーの大切さや必要性を伝えられるくらいになり、人まかせにしないようにしようと思う。
・マナーを守ることも今までであったし、マナーに背くこともあった。マナーを守れないということは、自己中心的な考えが優先してしまうということだと今回の授業を受けて感じた。これからは、マナーを毎回守れるようにすること、人の気持ちを考えて行動することが重要だと感じた。

【考察】

マナーの大切さだけでなく、マナーを守ることができない人間としての弱さ（人間理解）を深めた記述が見られた。これは、導入で自分の体験を共有する活動を取り入れたことで、道徳的価値について自分との関わりで捉えたからと考える。

②ねらいに対する深まりはないが、新たな気づきがあった。（10名）

生徒によるワークシートへの記述
・来年は、オリンピックとパラリンピックがあり、色々な外国の人が来るので、電車・バスで席を譲るなど日本に住んでいる自分が日本のマナーの手本となるような行動をしたいと思う。

【考察】

マナーの大切さについての記述はないが、自分自身の生活と結び付けていた。

このように実践しようとする意欲は、考える土台づくりの効果によると考えられる。

③その他（2名）

生徒によるワークシートへの記述
・自分からマナーを守っていく。

【考察】

考えの根拠となる記述はないが、何について考えればよいか、学習課題を捉えることができたと推察できる。

9 成果と課題（○成果 ●課題）

(1) 考える土台づくり

○授業後のワークシートの記述では、自分の経験を踏まえている生徒が多かったことから、考える土台づくりにおいて自分の体験を共有する活動は効果があったと考えられる。

●導入で用いた付箋をその後の学習活動で活用しきれなかった。終末で、自分の生活を振り返る際に用いるなどの工夫が考えられる。

(2) 深化の発問

○ワークシートの記述では、マナーを守ることの難しさについての記述が見られたことから効果があったと考えられる。

●生徒の考えの根拠を問うことで、さらに考えさせることができたのではないかな。

<指導例 2 : 第 3 学年>

1 主題名 生命の尊さ (D 生命の尊さ)

2 教材名 「生まれてきてくれて、ありがとうー助産師からのメッセージ」

出典：東京都道徳教育教材集（東京都教育委員会）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

生命とは普遍的なものであり、自他の生命は尊重すべきものである。しかし、社会を取り巻く状況を見ると、生命の尊さを理解しながらも、「自ら生命を絶つ。」「他者の生命を奪う。」といった事件が後を絶たない。

生命の尊さを知識として理解するだけでなく、生命が生まれてくることの重さ、親やそれを支える人たちの願いなどを考えさせ、理解を深めさせていきたい。

(2) 生徒の実態

中学校の段階では、学年が上がるにつれて、生命について連続性や有限性、自分が今ここにいることの不思議、社会的関係性や自然界における他の生命との関係性などの側面から、かけがえのない生命を尊重することについてより深く学ぶことができるようになる。

(3) 教材について

助産師が多くの生命の誕生の瞬間を通して、感じてきた思いを綴った教材である。

生徒には、自分が生まれたことの奇跡や、親や様々な周囲の人たちの願いを受け、支えられて生まれてきたことを感じさせ、生命の尊さについて考えを深めさせたい。

4 検証の視点（期待する生徒像）

期待する生徒像の視点	ワークシートの記述例
①ねらいに対する考えの深まりがあった。	・生命が大切なことは、分かっていたつもりだけど、自分の生命がどれだけの人に支えられ、願いや思いを背負っているのか、大切な理由が分かった。
②ねらいに対する考えの深まりはないが、新たな気付きがあった。	・自分が、様々な方に支えられていることが分かった。自分を支えてくれている方々に、感謝して生きていきたいと思う。
③その他	・生命を大切にしようと思った。

5 「DODA I-MON」の工夫

(1) 考える土台づくり

今回のねらいである「生命の尊さ」とは、日常でも使われることが多い言葉であり、生徒に、いかに生命について興味・関心をもたせるかが、指導のポイントになると考えた。

そこでお世話になった産休中の元担任に、生徒へ向けて、出産時の大変さや我が子への思いを手紙で伝えてもらうことにした。身近な人の生命の誕生に触れ、生命と向き合う雰囲気をつくり、道徳的価値を自分との関わりで考えようとする意識をもたせたい。

(2) 深化の発問

中心的な発問の後、自分の生命や生活を支えてくれている人について話し合い、自分に向けられた思いや願いを考えさせることで、自分の生命は、様々な人に支えられていることに気付かせ、生命の重さについて理解を深めさせたい。

6 本時の指導

(1) ねらい

自分や他者が生まれてきた時の思いや周囲の支えを知り、生命が尊い存在であると思う心情を育てる。

(2) 展開

	学習内容 (○発問 ◎中心発問)	・指導の留意点 ☆評価
導入	<p>1 元担任からの手紙を聴く。</p> <p>○産休に入られている先生から、皆さんに手紙が届いています。読みますので、聴いてください。</p> <p style="text-align: center;">DODAI-MONの工夫(1) 考える土台づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 赤ちゃんの写真を提示する。 手紙の中で語られた、「助産師さんへの思い」、「生まれた我が子への思い」などに触れ、生命の大切さや周囲の支えについて考えていくことを伝える。
展開	<p>2 教材「生まれてきてくれてありがとう」を読んで話し合う。</p> <p>◎助産師さんは、「どんな思い」で赤ちゃんを取り上げるのだろう。</p> <p>○自分の生命や生活を支えてくれている人を考えてみよう。</p> <p>○その中から一人を選び、その人の自分に対する思いを想像して書いてみよう。</p> <p style="text-align: center;">DODAI-MONの工夫(2) 深化の発問</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教材を範読する。 ワークシートには書かず、思いついた人から挙手して発表させる。 ワークシートのマッピング欄に自由に書かせる。 友達との交流の中で、新たに気付いた人物は、赤で追記する指示を行う。 四人グループで互いの記述を見せ合って交流したあと、何人かの生徒に発表させる。
終末	<p>3 学習をまとめる。</p> <p>○今日の学習で、生命について考えたことを書きましよう。</p>	<p>☆評価「4 検証の視点」参照。</p>

7 板書計画

<p>その中から、一人選んで、その人の自分に対する思いを想像して書いてみよう。</p>	<p>自分の生命や生活を支えてくれている人は誰だろう。</p>	<p>助産師さんは、どんな気持ちで赤ちゃんを取り上げるのだろう。</p>	<p style="text-align: center;">写真③</p> <p style="text-align: center;">写真①</p> <p style="text-align: center;">写真②</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl;">生命について考えよう</p>
---	---------------------------------	--------------------------------------	--	--

8 授業実践を終えて（ワークシートの分析）

(1) ワークシートの分析と考察

期待する生徒像の視点	人数
①ねらいに対する考えの深まりがあった。	7名
②ねらいに対する深まりはないが、新たな気づきがあった。	20名
③その他	5名

①ねらいに対する考えの深まりがあった。（7名）

生徒によるワークシートへの記述
・自分が他の人を大切に思っているように、他の人からも大切に思われていることを考えることができました。両親を含め、自分が周囲からどう想われているか考えたことがなかったので、今日ちゃんと考えられることができよかったです。
・生命の大切さ、そして支えられている全ての人への感謝を感じました。日々こうして幸せに過ごすことができるのは、周りでたくさんの方が私を支えてくれているからだと改めて実感しました。支えてくれてありがとうという気持ちでいっぱいになった。

【考察】

支えられていることへの感謝だけではなく、自分や他者の生命の尊さに気付いた記述や、自分の生き方についての記述が見られた。導入で、元担任からの手紙の内容によって、道徳的価値を自分との関わりで捉えたからではないかと考える。

②ねらいに対する深まりはないが、新たな気づきがあった。（20名）

生徒によるワークシートへの記述
・自分は生まれてくる前からいろいろな人に支えられていたんだと思いました。それぞれの思いに答えられないかもしれないけど、頑張って生きていこうと思いました。そして、いろいろな人に感謝したいと思いました。

【考察】

生命の尊さについての記述はないが、自分自身の生活と結び付けて、道徳的価値の理解を深めていたと考える。

③その他（5名）

生徒によるワークシートへの記述
・命は重く、大切なものだ。多くの人に支えられて生きている。

【考察】

考えの根拠となる記述はないが、学習課題である生命の尊さについて考えていた。

9 成果と課題（○成果 ●課題）

(1) 考える土台づくり

○身近な人の話題を取り上げることは、道徳的価値を自分との関わりで捉えることに一定の効果があることが考えられる。

●今回は、産休に入った元担任に協力を依頼したが、動画教材や授業者の幼少期の写真などの方法を考えることも必要である。

(2) 深化の発問

○「自分のことをどう考えるか。」という発問に慣れている生徒が多い中で、「周りの人は、自分をどう思っているか。」という発問によって、生徒は意欲的に取り組み、数多くの気づきが生まれたと考える。

●自分の生命が、様々な方に支えられていることを考えさせたかったが、違う視点で考えている生徒がいたので、発問に関して補足の説明が必要であった。

<指導例3：第1学年>

1 主題名 価値観の違いを知る（B 相互理解・寛容）

2 教材名 「言葉の向こうに」 出典：私たちの道徳（文部科学省）

「こんなつもりじゃなかったのに」 出典：SNS東京ノート4（東京都教育委員会）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

情報が瞬時かつ広範に伝わるといったメディアの特性、情報発信の容易さ、匿名性等からインターネット上での誹謗中傷やいじめ問題等の人権侵害が頻繁に発生している。

このようにインターネットによる他人や社会への影響を考えさせることを通して、SNSを通じたコミュニケーションを図る上で、大切な相互理解と寛容の態度を育てたい。

(2) 生徒の実態

中学校の段階では、ものの見方や考え方が確立するとともに、自分の考えや意見に固執する傾向ももうかがえ、考え方の違いから人間関係に摩擦が生じることが少なくない。

(3) 教材について

加奈子がSNSのやりとりを通して、コミュニケーションで「一番大切なこと」に気付く教材である。「一番大切なこと」に気付いた加奈子がとった行動について考えさせることを通じて、相手の立場を理解し、寛容の心をもつことの大切さに気付かせたい。

4 検証の視点（期待する生徒像）

期待する生徒像の視点	ワークシートの記述例
①ねらいに対する考えの深まりがあった。	・感情的になってしまい、ごめんなさい。これからは、楽しいやり取りができるように、認め合って意見交換しましょう。
②ねらいに対する考えの深まりはないが、新たな気付きがあった。	・これからはお互い楽しいやり取りができるように言葉を選んでコミュニケーションをしましょう。
③その他	・相手の嫌がることをしない。自分も気を付ける。

5 「DODAI-MON」の工夫

(1) 考える土台づくり

学級活動（2）「ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成」（表3）と道徳科（6 本時の指導）の授業を「コミュニケーション」というテーマでつなげたパッケージ型ユニット授業を考えた。

考える土台は、学級活動（2）の授業全体と道徳科の導入時のコミュニケーションの体験活動となる。コミュニケーションについて十分に考えることによって道徳的価値を自分との関わりで捉えさせるようにした。

(2) 深化の発問

ひどい言葉で書き合った相手に対し、加奈子は、どのように返信したのかを考えさせる。これにより、生徒の道徳的価値の理解を深めるとともに学習状況を把握できると考えた。

（表3）学級活動(2) ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成

	学習内容（○発問 ◎中心発問）	指導の留意点
導入	1 嫌な言葉について考える。 ○あなたが友達から言われて嫌だと思う言葉の一つを選ぶ。	・それぞれの理由を発表させる。
展開	2 コミュニケーションについて話し合う。 ○あなたが友達からされて嫌だなど感じることを順に並べる。 ◎意見が合わなかった場合、どのようなトラブルが起きる可能性があるか話し合う。	・6人のグループになり、各自の理由を説明させる。
終末	3 自己の課題について考える。 ○楽しいコミュニケーションにするには、どのようなことを考えればよいだろうか。	・ワークシート記入

6 本時の指導

(1) ねらい

加奈子の気付いた「一番大切なこと」を考えることを通して、互いの立場を理解し、寛容の心をもって接しようとする態度を育てる。

(2) 展開

	学習内容 (○発問 ◎中心発問)	・指導の留意点 ☆評価
導入	<p>1 SNSノートを活用し、コミュニケーションの体験を行う。</p> <p>○SNSノート 「こんなつもりじゃなかったのに」</p> <p>①LINEの内容が、今後どのように展開するのか15秒で予想する。</p> <p>②グループで自分と異なる意見をもつ人と、なぜその分類にしたかについて意見を交換する。</p> <p style="text-align: center;">DODAI-MONの工夫(1) 考える土台づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分類シートの上に、自分の考えを出し合う。 ・登場人物の性格を考慮して判断してもよいことを伝える。
展開	<p>2 教材「言葉の向こう」を読んで話し合う。</p> <p>○「コミュニケーション」とは何か。</p> <p>◎加奈子が忘れていた「一番大切なこと」とは何か、ワークシートに記入する。</p> <p>○加奈子はこの後、悪口を言ってきた相手に、どのようなことを書き込むだろうか。</p> <p style="text-align: center;">DODAI-MONの工夫(2) 深化の発問</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を範読する。 ・生活体験や学習したことから考えさせる。 ・導入の活動とネットでの書き込みの違いを考えさせる。 ・ホワイトボードに、グループ分の考えを記入させる。記入後は、黒板に掲示する。 ・ホワイトボードの内容を紹介する。 <p>☆評価「4 検証の視点」参照。</p>
終末	<p>3 学習のまとめをする。</p> <p>○より良いコミュニケーションをしていくために、これからどのようなことを考えればよいだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業を振り返って、感じたことを書かせる。

7 板書計画

ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード	加奈子の返信例	「一番大切なこと」とは	コミュニケーションとは	言葉の向こうに
ホワイトボード	ホワイトボード	ホワイトボード				

8 授業実践を終えて（ワークシートの分析）

(1) ワークシートの分析と考察

期待する生徒像の視点	人数
①ねらいに対する考えの深まりがあった。	16名
②ねらいに対する深まりはないが、新たな気づきがあった。	14名
③その他	3名

①ねらいに対する考えの深まりがあった。（16名）

生徒によるワークシートへの記述
・つかっとなってすみませんでした。Aさんを好きでない人もいますよね。
・ひどい言葉を向けてすみませんでした。お互いに悪口を言って、傷付け合っても悲しい気持ちになるだけなので、みんなが気持ちよく過ごせるようにお互い気を付けましょう。

【考察】

自分の言動を反省し謝罪、かつ相手の気持ちに理解を示している記述が見られた。これは、相互理解や寛容の視点があるから記述していると捉えることができる。また、今後の自分がどのようにするべきかまで含まれており、自分の生き方についてまで考えることができた。

②ねらいに対する深まりはないが、新たな気づきがあった。（14名）

生徒によるワークシートへの記述
・自分の感情を伝えるときは過激的な言葉でなく、優しい言葉で伝えよう。

【考察】

生徒の考えが、記述のように加奈子の言動として表出したのは、「SNSを使ったコミュニケーション」と「直接話し合う」との違いや、人による価値観の相違について理解を深めることができたからではないかと考える。

③その他（3名）

生徒によるワークシートへの記述
・悪口は相手にしないで、A選手について好きな人同士で語り合う。

【考察】

ねらいに対する深まりは見られなかったが、相手の心を傷付ける言葉でのやり取りを避けようとする気持ちは見られる。

9 成果と課題（○成果 ●課題）

(1) 考える土台づくり

○導入で、SNSノートを活用して他者と意見交換をする体験的な活動を用いたことは、道徳的価値を自分との関わりで捉えることに一定の効果があった。

●生徒に体験の違いがあるため、全ての生徒に対して一定の効果がある土台づくりを考えることは難しかった。

(2) 深化の発問

○加奈子の返信について考えさせたことで生徒の道徳的価値の理解を深めることにつながったと考える。また、生徒の道徳的価値の理解を深める学習状況が見取りやすかった。

●生徒の考えを深めさせるためには、「どうしてそう考えるの。」「なんでそう考えたの。」と、考えの理由を問う必要があった。

Ⅶ 研究のまとめ

1 成果と課題

3回の検証授業の成果と課題から、DODA I-MONの活用方法をまとめた。

(1) 考える土台づくり

検証授業	考える土台づくり	成果	課題
<指導例1：第2学年> 主題名 マナーとは何か 内容項目 B 礼儀 教材 「Manners make the man」	(導入時) 道徳的価値について身近な自分の体験を思い出し、他者と共有する活動を行う。	・自分の経験を踏まえている生徒が多かった。身近な自分の体験を思い出し、他者と共有することは効果があった。	・導入で用いた付箋紙を、学習のまとめの段階で、自分の考えを振り返ることに活用するなどの工夫も考えられる。
<指導例2：第3学年> 主題名 生命の尊さ 内容項目 D 生命の尊さ 教材 「生まれてきてくれて、ありがとうー命誕からのメッセージ」	(導入時) 出産のことや、我が子のことを綴った元担任からの手紙を聴かせる。	・身近な人の話題を取り上げることが道徳的価値を自分との関わりで捉えることに一定の効果があると考えられる。	・今回は、産休に入った元担任に協力を依頼したが、動画教材や授業者の幼少期の写真などの方法を考える必要がある。
<指導例3：第1学年> 主題名 価値観の違いを知る 内容項目 B 相互理解、寛容 教材 「言葉の向こうに」	(ユニット型) 「SNSノート」を活用したコミュニケーションの体験学習を行う。	・SNSノートを活用し、他者と意見交換をする活動は、道徳的価値を自分との関わりで捉えることに効果があった。	・生徒に体験の違いがあるため、全ての生徒に対して一定の効果を期待する土台づくりを検討することは難しかった。

成果

考える土台づくりは、道徳的価値について自分との関わりで考える意識をもたせることに効果が見られた。道徳的価値を身近に感じさせる工夫や、自分の体験を他者と共有させる機会を設定することは、普段の授業に取り入れやすいのではないかと考える。

課題

生徒の実態の即した考える土台づくりは難しかった。そのため、効果的だった考える土台については、他の教員と共有できるようにする工夫が必要である。

(2) 深化の発問

検証授業	深化の発問	成果	課題
<指導例1：第2学年> 主題名 マナーとは何か 内容項目 B 礼儀 教材 「Manners make the man」	(人間の弱さについて考える) 「なぜ守るのが大事だと分かっているのにマナーを守れないことがあるのだろう。」	・マナーを守ることの難しさについての記述が見られたため、効果があったと考えられる。	・生徒の考えの根拠や理由を問うことで、さらに、道徳的価値について考えさせることができたのではないかと考える。
<指導例2：第3学年> 主題名 生命の尊さ 内容項目 D 生命の尊さ 教材 「生まれてきてくれて、ありがとうー命誕からのメッセージ」	(自分に向けられた思いや願いについて考える。) 「自分の命や生活を支えてくれている人を考えよう。」	・「周りの人は、自分をどう思っているか。」という発問によって意欲的に取り組んだことで数多くの気づきが生じた。	・発問した内容と違う視点で考えている生徒がいたので、発問に関する補足の説明が必要であった。
<指導例3：第1学年> 主題名 価値観の違いを知る 内容項目 B 相互理解、寛容 教材 「言葉の向こうに」	(登場人物の思いを考える。) 「加奈子はこの後悪口を言ってきた相手にどんなことを書くだろう。」	・加奈子の返信について考えさせたことで、生徒の道徳的価値の理解を深めることにつながったと考える。	・生徒の考えを深めさせるためには、深化の発問に加え、「どうしてそう考えたの。」「なんでそう考えたか。」という理由を問う必要がある。

成果

検証授業においては、道徳的価値の理解を深めている生徒や新たなことに気付いている生徒が、学級全体の8割から9割近くいた。これは、中心的な発問の後に、深化の発問を設定したことで、さらに生徒に考えさせるによるものであると考えられる。このことから、深化の発問は、道徳的価値の理解を深めることに一定の効果があったと考えられる。

課題

深化の発問の後、生徒が考えたことに対して「理由を問う」ことで、さらに深く考えさせ、道徳的価値の理解を深めることができたのではないかと考える。

例えば、個人で考えさせている際、授業者がワークシートに書いてある記述内容について「どうして、そう考えたの。」などと問いかけ、生徒の思考を促すことで、さらに道徳的価値の理解を深めることになるのではないかと考えられる。

2 「DODAI-MON」の活用方法

検証授業の成果と課題を基に、DODAI-MONの活用方法について検討し、下記にまとめた(図3)。

	学習内容 (○発問 ◎中心的な発問)	指導上の留意点
導入	<p>考える土台づくり</p> <p>(例)</p> <p>○自分の体験したことを思い出してみよう。</p> <p>○この写真から、どのようなことを感じますか。</p>	<p>[道徳的価値について自分との関わりで考えようとする意識をもたせる。]</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆道徳的価値に関わる身近な体験について思い出させる。 ◆映像やゲストティーチャーを活用し、生活と結び付けて捉えさせる。 ◆国や都の教材を活用し、道徳的価値に関わる体験的な活動を行う。 ◆複数時間や、他教科等との関連を図る工夫もよい。
展開	<p>◎中心的な発問</p> <p>深化の発問</p> <p>(例)</p> <p>○～は、なぜなのだろうか。</p> <p>○～は、どうして必要なのだろうか。</p> <p>○この後、この登場人物は、どのようなことをするのだろうか。</p> <p>○～と考えたのは、どうしてなのか。</p>	
終末		

(図3) 「DODAI-MON」の活用方法

3 まとめ

(1) 研究主題について

道徳的価値の理解を深める指導法として、道徳的価値について自分との関わりで考える意識をもたせる工夫「考える土台づくり」や、道徳的価値の理解を深める発問「深化の発問」を取り入れたことは、生徒が道徳的価値について自分との関わりで考え、ねらいとする道徳的価値の理解を深めることに効果があったと考える。

(2) その他

道徳的価値の理解を深めるためには、教材における登場人物の心情や判断について考える発問とともに、道徳的価値の意味やよさなどを考える発問が大切であること、そのためには授業者が、内容項目についての理解を深め、授業の準備に取り組むことが重要である。

平成 31 年度(2019 年度) 教育研究員名簿

中学校・特別の教科 道徳

学 校 名	職 名	氏 名
板橋区立上板橋第二中学校	主任教諭	上遠野 貴 道
新宿区立落合中学校	主任教諭	奥 野 暢 基
武蔵村山市立第四中学校	主幹教諭	◎高 橋 優 子
多摩市立落合中学校	教 諭	松 村 孝 幸

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部教育開発課
指導主事 吉本 一也

平成 31 年度 (2019 年度)
教育研究員研究報告書
中学校・特別の教科 道徳

令和 2 年 3 月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849